九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」TEMDEC (Telemedicine Development Center of Asia)活動報告：第7巻

清水, 周次
九州大学病院

中島, 直樹
九州大学病院

https://doi.org/10.15017/19698

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 7, 2011-03. TEMDEC事務局
バージョン：
権利関係：

1.　はじめに

九州大学のアジア遠隔医療開発センター（TEMDEC）にとっての一番大きなニュースは何と言っても、特別教育研究経費「地域医療、国際医療貢献を目指した高品質動画による次世代遠隔医療システムの技術開発・実証」が採択され、今後 6 年間の予定で遠隔医療プロジェクトを推進する新たな基盤が整ったことでしょう。これにより、小さいながらもセンター独自の部屋が割り当てられ、専用の遠隔会議室には最新の設備を導入することが出来ました。またテクニカルスタッフ 1 名が新規に採用され、ハード・ソフト共に充実できた年となりました。

活動面ではこれまでの流れをさらに前進させ、遠くモロッコ、リトアニア、チリなどへも DVTS システムを拡大出来ました。海外では香港大学、マラヤ大学、ハノイのビエッダック病院など、また国内でも岐阜大学、金沢大学、徳島大学、国立成育医療研究センターなど、新たに 24 施設が加わっています。コンテンツとしては、まだ日本やアジア地域では非常に目新しい胎児治療が加わり、鎌倉での国際学会を成功裏に終了することが出来ました。また中国の協和医科大学病院を中心とした早期胃癌の会では病理画像を多く取り入れ、新しいアノテーションシステムも利用しながら充実したディスカッションが定期的に行われています。

また今年はこれまでにも増して海外から多くの研修医師を招き、内視鏡や外科の先端的診断や治療について議論を交わし交流を深めることが出来ています。初めて招聘したブラジル、メキシコ、チリ、アルゼンチン、ウルグアイ、ネパールなどに加え、南アフリカ、インド、タイ、中国、韓国など、総勢 14 カ国、20 名に及びました。これらの人的ネットワークを最大限に活用し、今後は特にラテンアメリカやアフリカ地域との国際的な教育システムの確立実現へ向けて努力したいと思っています。またこの 3 月からはベトナムより 1 年間の予定で技師の方が初めて研修予定です。遠隔医療の技術を学び、帰国後はそこを拠点として活動がさらに広がっていくことを期待しています。

ただ活動が広がるにも関わらず、未だに高速の研究教育ネットワークが整備できない多くの医療機関が存在することも事実です。これらの施設に対応するためにこれまでも通常の回線でポリコムなど従来のビデオ会議システムを使用していましたが、今年はこの接続回数が大幅に増えました。便利なこれらのシステムの利用は、これからもどんどん広がっていることと思います。

平成 15 年より 8 年間続いていた「日韓拠点大学事業」が今年度で終わりとなります。当初より遠隔医療プロジェクトの原動力となって来たこの事業が終わることは非常に寂しい思いですが、これまでの成果を基盤に来年度からは第 2 段階へと飛躍したいと思っています。DVTS に勝るハイビジョンシステムの確立、低容量回線地域を含むさらなる活動の拡大、魅力的かつ継続的なプログラム共有のための確固たる体制作りなど、積極的に推し進めて行きたいと思います。

皆さまのご協力を今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

平成 23 年 3 月

九州大学病院　アジア遠隔医療開発センター
清水周次